
5年研究授業計画

東二番丁小学校 5学年担任 井上 竜一

1 研究授業で目指す児童像

課題に対する自分なりの考えを持ち、言語を使って理由や根拠を明確にして伝え合い、自らの考えや集団の考えを広げたり深めたりすることができる。

2 児童の実態

発表に意欲的で、発問に対して自分の考えを明確にすることができる児童が多い。しかし、考えをまとめるまでに時間がかかったり、自分の考えに自身が持てず、発表をためらってしまったりする児童も見られる。発問について考えさせる場面では、短い文章にまとめたり、短い時間で手早く書いたりすることは苦手である。全体で意見を交流する場面では活発に発言する児童も多いが、交流に消極的な児童も見られ、個人差が大きい。音読の学習には意欲的に取り組み、登場人物の気持ちを想像して読み方を工夫することができていた。自分の考えを手早くまとめて記述したり、意欲を持って交流し考えを高めあうことができるような指導が必要である。

3 授業研究計画

- (1) 説明的な文章を比較する読み取りを通して、要旨を捉えたり、文章の関係を押さえたりしながら、作者の意図について考え、自分の意見を交流させる授業。
- (2) 文学的な文章の読み取りを通して、物語の構成や表現の工夫を捉え、作品の良さについて考えたことを交流し合い、深め合う授業。

4 授業技術課題

- ・ 分かりやすい端的な指示や発問を行い、学習に見通しを持つことができるようにさせる。
- ・ 座席表を活用し、授業のねらいにせまるための確かな見取りを行う。